〔4番 水上雅廣 登壇〕

○4番（水上雅廣）

発言のお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

最初に、古川駅東開発に関して質問させていただきたいと思いますが、質問に入る前に、先ほどこの件に関しては市長のほうから、議会でやれることはきちんとやってくれよという話がありました。この件については議会のほうでもいろいろと考えておるところが、手法や手続きがあるんだろうと思って考えておったところで、ああいった発言が何人かの議員からありましたけれども、それはそれで、いろいろと心配をされる声を受けたり、自分で心配をされてのことだと思っておりますので、議会は議会としての対応をさせていただきながら、その辺は市長にも何とか理解をいただいて、進めさせていただきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

私のほうは、今回、特に交換される予定の土地と建物に関して、極めて事務的なことになるのかもしれませんが、細かくなりますけれども、10点ほど質問をさせていただきたいと思います。

当初の説明では、代替の駐車場の工事着工後、駐車場条例の改正を行い、行政財産として管理すると。その次に、代替駐車場及び付帯施設の完成後、機能の確保を確認する。その後、財産の用途変更を行って、交換、契約、所有権移転の登記を行うということで説明がありました。交換については、市の所有地に補助金が投入されているということもあるので、機能的価値及び財産的価値が若宮駐車場と同等またはそれ以上の機能を有する駐車場が整備されることが交換の条件であります。こうしたことを幾度となく答弁をいただいております。今、代替駐車場が整備されつつありまして、消防器具庫や公衆トイレは完成したかのように見受けられます。トイレについてはまだ一部工事を行っているように拝見しておりますけれども、いよいよ見える形になってきたということで、先の一般質問で、ある方の答弁の中で、駅東開発事業に関するあらゆる課題等につきましては、定期的に関催しております飛騨古川駅東開発定例会議の中で協議を行っており云々と、こうした答弁がありましたので何らかの交換の手続き、あるいは準備が進められているのではないかとこのように推察をした上で質問書を作らせていただきましたので、それに沿って質問をさせていただきたいと思います。要は状況を教えていただきたいということでございます。

まず1点目、評価比較は土地、建物それぞれの評価比較となるのかということですが、補助金を投入した土地について県から、「機能的価値及び財産的価値が一致、もしくはそれ以上の駐車場との交換であれば補助金8,000万円余り、その返還は不要である。」との回答があったと。つまり、台数が同じか、それと同等、または、評価額が同水準の駐車場が整備されるのであれば、補助金の返還は不要という説明をされております。交換しようとしている市有地には補助金対象分とそれ以外の部分があるのでしょうか。あるとすれば、土地、駐車場それぞれの比較評価をしなければならぬのではないのでしょうか。過去の答弁を見ると、補助金で購入した土地と、それ以外の土地、排土処理されました市道を挟んだ駅側と株式会社東洋側に分かれているように解釈できるのでありますが、それぞれ比較した上で土地の総合評価をする必要があるのではないのでしょうか。また、等価交換に当たっては土地、建物をそれぞれ別に評価し比較するということがよろしいのでしょうか。加えて、機能的価値と財産的価値の両方が満たされる必要があるのではない

かと思えますけれども、いかがお考えでしょうか。

2点目、駐車場の法定外公共物の処理は終了をされているのでしょうか。かつての答弁の中で「若宮駐車場の赤線・青線の処理は事業者のほうで確定測量等をしていただく。」このように答弁をされていましたが、処理はされたのでしょうか。

3点目、交換しようとする双方の土地、建物の測量や評価の鑑定は誰が行われるのでしょうか。新たに整備された代替駐車場及び付帯施設、市有の駐車場と付帯施設、それぞれ誰がどのような方法で測量や評価を行う、あるいは行ったのでしょうか。あわせて、鑑定評価額が算出されているのであればお答えください。

4点目、既存建物の解体撤去費用などは比較評価に影響するのでしょうか。消防器具庫と公衆トイレは開発者側の負担により同等の施設を新たに建てて整備した上で、交換ということも条件として含めるということでもありますけれども、交換後の撤去費用等については評価比較に考慮する必要はないのか伺いたと思います。

5点目、交換は条例による交換をお考えなのでしょうか。土地等の交換に関しては地方自治法第96条の議決、これによる交換とされるのか。それとも飛騨市財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例による交換をお考えなのか。いずれによるものとなるのでしょうか。

6点目、比較差額が生じた場合、金銭での補足となるのでしょうか。土地にしても建物にしても、交換双方の評価額が等しくなるということは、おおむね考えにくく、その場合の価格の差額、これについては金銭で補足するということになるのでしょうか。教えていただきたいと思えます。

7点目、所有権移転登記はいつ頃を予定されているのでしょうか。今お答えいただいているようなことでありますけれども、一部報道では商業施設は2027年中の開業を予定しているということでした。工事期間も相当な期間を要すると思われましても、所有権移転登記はいつ頃をめどとされているのでしょうか。あわせて、所有権移転前と後の個々の土地、建物の固定資産税についてはどのようになるのか。課税対象となるのでしょうか。教えていただきたいと思えます。

8点目、駐車場条例の改正はどのタイミングで提出をされるのでしょうか。代替駐車場工事着工後、駐車場条例の改正、廃止を行うということでありましたけれども、いまだ議会には諮られておりませんので、いつどのタイミングで改正条例を議会に上程されるのか、予定をお聞きしたいと思えます。

9点目、ハートピア古川駐車場についてですけれども、「ハートピア古川駐車場は隣接する工場跡地に30台を確保し専用駐車場とする。」とありましたけれども、具体的にどこに設置をされるのでしょうか。これも先ほどお答えをいただいたということですが、改めてお聞きします。その駐車場は賃貸借契約を結ぶのか、あるいは寄附というような形になるのか教えていただきたいと思えます。

最後に10点目、上町の説明会の状況ですけれども、先般、古川町上町において駐車場確保に関する説明会が開催され、地元の方々からは厳しい意見もあったというふうに聞き及んでおります。どういった内容だったのでしょうか。説明会に関係職員は参加をされておったのか。飛騨古川駅東開発定例会議の中で、この上町の駐車場に関する案件について説明や協議というようなことはあったのかどうかをお伺いしたいと思います。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

□商工観光部長（畑上あづさ）

それでは、1点目から10点目まで順次ご答弁申し上げます。

まず、1点目の評価比較の方法についてお答えいたします。交換しようとしております市有地には、補助対象となっている部分と補助対象外の部分がございますが、それぞれの比較評価を行う必要はなく、あくまでも現在の駐車場として評価することとなります。また、等価交換の条件としては議員ご指摘のとおり、土地と建物は別で評価し、財産的価値はもちろん機能的価値についても満たす上での交換手続きとなります。

次に、2点目の駐車場内の法定外公共物の処理につきましては、現時点ではまだ行われておりません。開発者側からは、今後、駐車場の交換に合わせて手続きを行っていくと伺っております。

3点目の土地、建物の測量や鑑定評価の実施者につきましては、開発者側にて民間の測量会社及び不動産鑑定士に依頼して進めていると伺っております。なお、鑑定評価額については現在依頼中ということで、より交換時期に近づけて鑑定額を算出していただけるよう配慮いただいております。

4点目の既存建物の解体撤去費用の評価比較への影響につきましてお答えいたします。土地、建物の交換に当たっては、あくまでも同じ条件、現状での比較になりますので、交換後の撤去費用等につきましては、評価比較に考慮する必要はございません。

5点目の土地交換についての法令等の適用についてお答えいたします。飛騨市財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例第2条において、同一の種類財産と交換でき、ただし、価値の差額が、その高価なものの6分の1を超えない場合には、議会の議決を必要としないものとされております。今回交換する土地、建物のうち、土地の鑑定評価額については価格差を面積で調整しているため、大きな差が生じることはないと考えておりますが、新しい消防器具庫とトイレにつきましては、建設費がほぼ評価額となり、当然にして既存の古い建物より高くなりますので、価格の差額は高価なものの6分の1を超えると想定されます。したがって、地方自治法第96条の議決を要するものとなると考えております。

6点目の比較差額が生じた場合の対応についてお答えいたします。飛騨市財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例第2条第2項に、「財産を交換する場合において、価額が等しくない場合は、その差額を金銭で補足しなければならない。」とあります。今回、当初より、比較差額については開発者側が寄附する意思を示されており、金銭での補足はありません。

7点目の所有権移転登記の時期についてお答えいたします。佐藤議員のご質問にお答えしたとおり、駐車場条例の改正及び財産の交換については、現時点で伺っているスケジュールどおりに進んだ場合には、3月定例会で議案を上程し、議決をいただければ、直ちに交換の契約を締結して登記手続きに入ることとなります。この場合、4月中の所有権移転登記完了となると考えております。また、固定資産税につきましては1月1日が賦課期日となっておりますので、現在、開発者側が整備中の駐車場の令和7年度の課税については、賦課期日における所有者である駅東開発株式会社に課税されることとなります。

8点目の駐車場条例の改正時期についてお答えいたします。地方自治法第238条の4において、「行政財産は特定の場合を除き交換することができない。」とありまして、若宮駐車場を行政財産から普通財産に変更する必要があります。したがって、7点目の質問でお答えしたとおり、財産交換の議案を上程するタイミングに合わせ、駐車場条例から若宮駐車場を削除する改正案を上程する予定であります。

9点目のハートピア古川駐車場についてお答えいたします。具体的な場所につきましては、昨日の佐藤議員の答弁で申し上げたとおり、ハートピア古川に隣接する飛驒の山樵館収蔵庫横の市道若宮7号線を挟んで向かい側の株式会社東洋跡地への設置が計画されております。これも全体の交換契約の中に含まれております。したがって、新たな賃貸借契約や寄附はございません。

最後に、10点目の上町での説明会の状況についてお答えいたします。まず、説明会に関係職員は参加しておりません。上町での駐車場計画につきましては、昨日、野村議員のご質問でもお答えいたしました。飛驒古川駅東開発定例会においても説明がございまして、地元説明会において地域の方々の理解が得られにくい状況であったため、一旦計画はストップし、再度検討したいとお聞きしております。

〔商工観光部長 畑上あづさ 着席〕

○4番（水上雅廣）

事務的なことで、何より鑑定がまだということでしたから、それ以上の進みようがないということだというふうに理解しますけれども、こうした案件は結構シビアな案件で、事務手続き上のことも心配になるものですから、いろいろとお聞きするわけですが、まずそれよりも、飛驒古川駅東開発定例会議の会議を度々やっておられるということですが、これはどのようなメンバーで、どういった内容の会議をされておられるのか差し障りがなければ教えてください。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

この定例会議の出席者につきましては、開発者側のほうからの出席者と、庁舎内につきましては商工観光部、企画部、教育委員会事務局、基盤整備部の事業に関係する部署の担当者が集まりまして、その時点での計画の進捗状況や、工事を進めるに当たっての課題やその解決方法などについて協議を行っております。

○4番（水上雅廣）

では、メンバーの中に総務部は入っていないんですね。何を言いたいかというと、こうした案件の中で、例えばさっき固定資産税の触れられました、評価のことについてもそうなんですけど、管財係や、そういったところが含まれているのかなと思ったのでお聞きしました。

寄附についてなんですけど、これは寄附と言われながらも、お金に関係するのではないかなというふうに思うんですけれども、これはそもそも負担付寄附には当たらないということよろしいですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

負担付寄附には当たらないと考えております。

○4番（水上雅廣）

当たらないならそれでいいと思うので、私も当たらないというふうに思っていますけれど、確認はしていただいていますよね。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

今回の交換につきましては、先ほど、飛騨古川駅東定例会議のときに総務部、管財係などは入っていないのかとおっしゃいましたが、飛騨古川駅東定例会議とは別で、管財係なども含めたメンバーで打ち合わせ会議を行っておりますし、そこで疑念が生じた事項については顧問弁護士や鑑定士、司法書士のほうにもお尋ねをしながら、手続きついて、そごがないように進めております。

○4番（水上雅廣）

よろしくお願いをしたいと思います。

寄附についてちょっと細かくなりますけど、例えば、事業者側から自治体のほうに、土地であっても寄附をされた場合に、確定申告か何かで税制優遇といたしますか、損金の算入ということになるのではないかと思います。そうしたときに、何かしらの証拠書類とか、そういったものが必要になると思うんですけど、市のほうの会計上の処理でそういう必要になる書類があるかどうか、この辺りのことはどうなのでしょう。打ち合わせの中でしてあるのでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

現状、まだそこまで具体の手続きについての検討をしておりませんので、これからそういったことに関しても、関係部署協議の上、適切な対応ができるように進めてまいります。

○4番（水上雅廣）

ちょっとシビアになりましたけども、きちんとしておいていただきたいなと思います。

それから、鑑定評価ですけれども、事業者側のほうでされるということですが、これはきちんと市のほうでも、それを確認させていただくことはできるということ承知しておいてよろしいですね。そこに恣意的にということは恐らく考えにくいと思うんですけども、本当はどのような形がいいのか私にもよく分かりません。一応、業者側にやっていただきますけれど、ただお互いに確認をしながら、本当にその価格の評価はどういうものであるかということを確認した上で、交換の条件等々を結びながら契約していくということになると思いますが、その辺りはいかがでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

当然、議員おっしゃるとおりであると思っております。

○4番（水上雅廣）

もう1つ、法定外公共物なんですけれど、まだ青線なのか赤線なのかやられていないということですね。今、交換をされるときに、その面積は含めた上で交換をされるのか、それとも除いた上で交換をしておいて、後で手続きをされるのか。要は何が言いたいかという、全てを市の土地として交換をするのか、それとも除いた上で市の土地と交換をして、ここは例えば事業者の後々手続きをした上で買っていて登記をする、そういった形になるのか。その辺についてはどのような考えなのでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

○4番（水上雅廣）

細か過ぎてごめんなさい。そういったこともあるのかなと。要は、最初にどういう手続きがされるのかということがあって、それと、面積比較をするときも評価をされる上でも、そこが含まれているのかいないのかでまた違うと思うものですから、その辺りもしっかり協議をしていただけたらいいかなと思いますのでお願いをします。いろいろと細かいことはあるだろうと思いますが、まず手続きの中でしっかりとやっていただくことをお願いしたいと思います。

それと、事務上のことではないんですけど、この開発といいますか施設について、何か古川町のことのような感じで受け止められがちなんですけれど、私は飛騨市の大切な一つの企業の施設のとして育てていっていただきたいというか、しっかりした経営をしていただけるように思っております。その中で、河合町や宮川町、私の地元のほうへこういう話をしてもあまりピンと来ていらない方が多いんですけど、今のそういった施設ができたりすることによって、古川町民というか、近くの方ばかりではなくて、多くの人にそういう効果といいますか、例えば、私のほうだと、そこはショッピングモールではないんですけど、いろいろな買い物ができる、そばにお医者さんがある、あるいはお風呂がある、子供の遊び場がある。今公共交通は1便だけですけれども、古川直行便を造っていただきました。そういったことを思うと、離れていても、そこが一つの拠点のような感じになるのかなと思うんですけど、そういったことについてはどのような考えなのかお聞かせいただけたらありがたいです。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

結構広域に影響といいますか、いろいろな変化があるだろうと思いますが、今いろいろな議論の中で中身の計画が少しずつ変わってきているんですけど、子供の遊び場と温浴施設、多分ここが最も大きな影響になると思います。

子供の遊び場なんですけど、これは杉崎公園にすごく人が集まっている現象と似たことが恐らく起こる可能性があって、飛騨全域から富山県の南部まで非常にそういった場を求めているので、エリアになってくるのではないかなと思っておりますし、その意味では河合町、宮川町も含めて利用される方はかなり増えてくるのではないかなと、その意味の影響が1つあると思います。それがあったものですから、実は全天候型の遊び場の計画を飛騨市で令和2年ぐらいから検討していたものも、そちらができると全て吸収されてしまうので、一旦まずその計画を見るという状況に

なっていて、委員の皆さんから開発者側に要望事項が伝えられたというのがあって、ちょうど私のところへ来られて、私の前でそれをされたということがありましたので、多分そこが大きなポイントの1つだろうと思います。

もう1つは温浴施設です。近年、高山市も飛騨市も含めて、しばらく新しい温浴施設ができたというのはいないんですね。こういったものはどこでもそうなんですが、新しいところに人が集中する傾向がありますし、その意味ではどういうものができるかというのはこれからなんですが、それはプラスの影響としてたくさん人が集まるということもありますし、昨日、野村議員の一般質問のときにも申し上げましたけれども、既存の市の温浴施設の入館者に影響が出てくるときに、休廃止の話と連動する可能性が高いと思っておりまして、その影響も出てくるということで、いずれにしてもこの問題は全市的に何らかの影響、プラスの影響のほうが圧倒的に多いわけですが、そういったことが出てくるのではないかなというふうに私自身は感じております。

○4番（水上雅廣）

これはまだ見えませんが、せつかくですからよりよいものをお願いしたいなと思います。

2点目に入ります。新年度予算編成について3点ほどお伺いをしたいと思います。今103万円の非課税枠の拡大で減税されると。国、地方で約7.6兆円と書いてありますけれども、6兆円から7兆円という幅で減収となるというような試算がされておるといことです。所得税を原資とする地方交付税にも当然影響があるのだらうなど。11月20日に市長は定例会見で、「市の試算では個人住民税で2.6億円、地方交付税で3億円の減収が年間で見込まれる。」このように述べられたということでありました。同日、自民党、公明党、国民民主党は年収103万円の税の壁の見直し方針などを明記した政府の総合経済対策の取りまとめを合意したというようなことも報じられました。どの程度まで非課税枠が引き上げられるのか、今、協議中でもありますし、来年まで延びるみたいな話もあるわけですがけれども、動向をしっかりと見なければ分からないということでもありますけれども、いずれにしても県や市の財政に、少なからず影響はあるんだらうなというふうに思っております。今回の定例会でも市長報告の中で、こうしたことが実施されると様々なサービスや補助金を大幅に削減しなければならない。そんな状況に陥ることが必至であると述べられましたし、これに加えて、人件費のほうも人事院勧告による給与の大幅な引き上げがあり、この勧告に従えば、相当程度の増額ということになると思います。こうした中での、来年度の予算編成作業ということでご苦労されておるわけですがけれども、その編成に向けた姿勢を伺いたと思います。

1点目は、予算の規模についてですけれども、国の状況が不透明な中ではありますけれども、来年度予算の規模はどの程度になるのかを教えてくださいたいです。それから、人件費の影響額、これも併せてお尋ねをしたいと思います。

2点目、歳出のどこへ切り込んでいくのでしょうか。仮に、歳出削減はやむなしとなった場合に、歳出のどこへ切り込むことになっていくのか、どういう思いでいらっしゃるのでしょうか。企業会計の経営に影響はないのか、そういったことも心配されるんですけども、どうでしょうか。それから、定員適正化計画、公共施設の管理運営計画、こうしたものへの影響についてはどのようにお考えになっているのか伺いたしたいと思います。

3点目、道路維持費を含む建設事業費の確保をお願いしたいということでもあります。こうやって予算が厳しくなるということになりますと、これは先例があるわけですが、真っ先に目を向け

られるのは公共事業と言いますか公共工事だろうというふうに私は思っています。身近な維持修繕、あるいは国庫補助等を伴う防災・減災、強靱化対策。こうしたものがあるわけで、国や県への事業費の確保、その対策、それから市としての事業費の確保、こういったことを図っていただきたいと思っておるわけですが、どのように図っていかれるのか、お伺いをしたいと思います。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔市長 都竹淳也 登壇〕

△市長（都竹淳也）

来年度の予算編成につきましてのお尋ねでございます。3点ともお答えを申し上げたいと思います。

まず、1点目の予算の規模であります。数年前までは経済的な変動が小さい時代がずっと続いてきましたので、地方財政計画の規模の前年ベースをもとに、前提にその変動幅の中で予算の規模を大体見通すことができましたわけでありまして、人件費や物価の高騰というものが出てまいりましてから、なかなかその手法が通用しなくなってきております。しかも、今年103万円の壁問題のように、国の税制をめぐる大きな変動要素がございまして、その影響額も精緻に見込むことができないと。さらに、人事院勧告による職員給与の引き上げ、これはもう決まっているわけですが、これに地方交付税がついてくるのかどうか、これがまだ見極められないという、言わば五里霧中の状況にあるということです。人件費につきましても、昨今の採用難ということで、退職者を補充する採用職員数がまだ確定をいたしておりませんので、その影響額も申し上げられない状況にあるということで、現時点においては予算規模を申し上げることができない状況ということでございます。正直言って、大変困っております。

ただ、人事院勧告によるベースアップ分に見合った地方交付税の配分があったとしても、物価高騰に伴う物件費全体が非常にアップしておりまして、これに見合った財源が確保できる確たる見通しが無いという状況で、これまでにない大変厳しい予算編成になるということは明白であるというのが現在の状況であります。「入るを量りて出ざるを制す」という考え方で予算編成をしておるんですが、身の丈に合った予算規模とする必要性というのを強く感じておりまして、財源が見込めなかった場合、最終的に年末の地方財政計画の決定がどうなるかということ、その中で交付税がどうなるかということを見越した上でなければいけないんですが、そこから慌てるわけにはいきませんので、今、一般財源ベースで予算要求時点から10%削減した案を各部局でつくれというふうに指示を出しております。そのような状況であるということでございます。

2点目、歳出削減やむなしとした場合にどこを切り込むのかと、こういうお話でございます。今申し上げましたように、あくまでも地方交付税等の要素によって変わってきますので、交付税などを含めて一般財源総額が確保できなかった場合の想定議論であるということを前提に考え方として申し上げますので、来年度こうするというのを申し上げているのではないということをお聞きをいただければというふうに思います。予算は、事業費に対する財源が確保できれば、すぐに編成できるわけです。つまり、全額が国庫補助金で賄われるような事業でありましたり、例えば、森林環境譲与税のように今、財源が100%あるものについては、財源があります

のすぐやりますというふうに言えます。あるいは、ふるさと納税の寄附金、これはおおむね年間5億円を充てるということにしておりますが、現在、昨日も答弁申し上げたような水準でいけば5億円に達するだろうということですから、そういったものが充てられる事業については財源がありますから、もちろん事業内容の精査をしますけれども、すぐに予算を編成できるということになります。

問題はそうした財源がない事業をどうするかということなんですが、実は予算要求額の大半がそうでありまして、特定の財源はないというものです。そうすると、財源が確保できないものというのは、一般財源と言われる市税とか地方交付税とか、自治体の裁量で自由に使うことができる財源を使うということになるわけでありまして、この一般財源総額が潤沢にあれば苦労しないんですけども、飛騨市の場合は市税が非常に少なく、地方交付税が多くを占めるという財政構造ですから、結局、国がどういう配分をしてくれるかによっているということなんです。しかも、この配分額というのは年末の地方財政計画の中で大体の全体の伸び率は分かりますが、飛騨市に幾ら来るかは7月になってみないと分からないので、そこで穴が空くと、後は財政調整基金を崩すしかないということになります。そういうことになっているものですから、通常大体今までですと、このくらい入ってくると見通せましたけど見通せないのもので、非常に苦しいということになるわけです。

一方、歳出面から見ますと、行政経費のうち義務的経費というものがございまして、人件費、それから扶助費、公債費、公債費は借金返しです。こうした経費は義務的経費ですから優先的に予算化しなければなりませんし、人件費も、いきなり職員をリストラするわけにはいきませんから、これも人件費がアップした分は確保しなければいけない。そうすると、しわ寄せはそれ以外の経費で吸収しなければいけないということになります。

ただ、削減するにしてもどれも必要なんです。そうすると、市民生活に極力影響が出ないようにしなければいけないということですので、影響が出る予算、例えば毎日のごみ収集の予算ですとか、救急車の出動経費、あるいは火災に対応する消防関連の経費、道路の除雪、こうしたものは切るわけにはいきませんので最優先で確保して、その次に予算を削減するものは何かと考えるべきではない。それは市民生活の影響が少ないものという視点に加えて、市の単独事業、いわゆる真水の負担で実施しているものは真っ先にその対象になってくるということになります。例えば、老朽化して使用されなくなった建物を取り壊すというのはもうちょっと待ちましょうよということになりますし、市が主催するイベント、こうしたものはぐーっと規模を縮小する、あるいは取り止めてその分でお金を浮かすということが必要になります。あるいは、市の中の行政の職員の行政経費、こうしたものについてはもう経費を圧縮するというようなことで、何とかそういうところで捻出をしていくしかないということになってこようかというふうに思います。

それをやった上でもなお、財源が不足するということになれば、いよいよ市民生活に影響するところに手をつけなければならないということになりますので、例えば、市費で実施している福祉医療費の助成ですとか、各種団体の補助金、これをカットするということも起こり得ますし、最悪の場合、議員もご心配になっている地域基盤振興費、今1億5,000万円ありますが、これにも手をつけざるを得ない、あるいは企業会計の繰り出しも絞らざるを得ない、そういったこともやっつけていかざるを得ないというのが、最悪の場合は起こってくるということになります。当然、新規

事業というものがなかなかできなくなりますので、昨日も議論ありましたがDX化を推進しているわけでありませうけれども、そうしたシステムの導入というのも慎重にならざるを得ませんし、導入するときには国の全額負担があってもランニングコストが出てくるということになれば、DX化は進めたいけれど、それは見送るということも場合によってはあるということでもあります。

いずれにしても、新規事業につきましては、そういった後年度負担も考慮しながら、慎重に判断していかなければいけないということでございます。いずれにしても、総額が見込めないと作業に入れないので、今現在は最悪の場合を想定しながら、絞り込んだ経費を前提に予算編成を進めていくということになろうかと思えます。

それから、3点目の建設事業費の確保ということですが、これは従来申し上げておりますとおり、市内建設事業者の皆様のおかげで、冬期の除雪が実施されているという現状もございませうし、市内の建設事業者の皆様がおられるからこそ、災害のときに迅速な対応ができるということでもありますから、そういったことも含めて必要とされる事業費は優先的に予算確保したいという方針でございます。ただし、建設事業を実施する場合には、その財源として市債を借り入れる必要がございませうので、過度な借入れは将来的な財政負担を増やすということになりますので、国や県の予算措置額を踏まえて将来の財政負担、公債費の負担を考えながら、市にとって必要な事業費を見極めていくということになろうかと思えます。

以上でございます。

〔市長 都竹淳也 着席〕

○4番（水上雅廣）

大変厳しい見込みをありがとうございます。ありがとうございますと全然言えないです。聞いていて疲れましたが、再質問のしようもないと思うのですが、いろいろな面で頑張ってくださいとしか言いようがないです。何か族議員みたいなことを言うので嫌なんですけど、今、国の補正の中でも、強靱化計画の予算も補正と一緒にある程度出てくるということもあるし、そうしたことも含めて、また積極的に要望活動であったり、そういったことを市長のほうに、あるいは関係の職員のほうに、国ばかりではなく県のほうにもいろいろと折衝をお願いしたいというふうに思います。

あと先ほどもありましたけども、今もお風呂とか、いろいろなところに触れられるんですけど、次の質問でデイサービスの話もさせていただきますけれども、例えば宮川町の保健センターの機能としてはデイサービスがなくなるということなんですけれども、そういったところがこのところ私のほうで散見されるといいますか、気持ち的にどうなんだろうというところがあるんです。そうしたことを思う中で、将来のことを思えばやむを得ないといえますか、理解をしなければいけないところは理解をしなければいけないし、市民の皆さんにも、そうお願いをしていかなければいけない。これは市と私たちでやっていかなければいけないんだろうと思うんですけども、公共施設の管理計画とか予算編成もそうですけれども、そうしたときに整理統合、統廃合を考えられるのはやむを得ないという立場に立っても、その施設そのものを取り壊さないまでも、何か新たなものにシフトしていけるような、そうしたところで地域に元気を出してもらえようようなことも、観点の1つとして実行計画をやっていかれる中で取り組んでいただきたいと思います、ここをまた再度お願いをしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

何年か前に、河合町で施設を廃止したときに、Y u M e ハウスもありましたし、友雪館の食事ができる部分を撤収したこともありましたが、そのときに河合町の方に「市長、理解はするけど、心のかすにならんようにしてくれ。」ということと言われたのが非常に強烈に今でも心に残っておりまして、常にその言葉を戒めにしながら、この市政に取り組んでいるつもりでおります。心のかすにならないというのは、先ほど議員おっしゃったように施設を単にやめて、サービスをやめて、切り倒して終わりにするのではなくて、何か有効な別の用途に使って、それが違う形のにぎわいなり、注目を浴びている形にしていくというのも1つの手法だというふうに思いますし、宮川町で言えば、飛騨みやがわ考古民俗館が今本当にうちの学芸員の努力もあって、非常に全国にも注目される博物館になってきている。これもお金をかけているわけではないんだけど、知恵と工夫でやることによって心のかすになることを防いでいる1つ大きな要素ではないかと思っておりますし、例えば池ヶ原湿原に力をいれてきたことについてもそうですし、あるいは宮川保育園の改修にかかる費用を、新たに建物を建てるというところにシフトして、保育園と小学校を併設することによって違う新しい魅力を生み出すというのも、私、それを考えたときにずっと心の中に、心のかすにならないようにしてくれと言われた言葉がずっとありまして、その言葉をずっと戒めとして私は思っております。同じような考え方で、今後、人口が少なくなる地域における、あるいは人口が少なくなる場所だけではなくて市内全域の施設の統廃合に当たっても、そういったことで違ういろいろな対策の中で、施設はなくなったけれども、何か元気はあるよねというような印象を皆さんに持っていただけるような、あるいは住みやすくなっているよねというようなこと言ってもらえるようなサービスというのはしっかりと確保するように努力してまいりたいと考えております。

○4番（水上雅廣）

ぜひお願いをします。今の市長の言葉を聞いていらっしゃった方は、ほっとしたというか、そうであってほしいと願っていると思っておりますし、職員にも、もちろん今までも十分頑張ってもらっていますけども、今おっしゃったようなことをしっかりと思っていたきたい。打ち合わせをしたりするとき、そうしたことを少しでも思っていたければ違う道も出てくるのかなというようなことも思わないわけでもありませんので、苦言でも何でもなく、そのようにお願いしたいと思っております。

3点目に移らせていただきます。宮川町のデイサービスについてですけれども、宮川町デイサービスと河合町デイサービスの統合に係る住民説明会が開催されました。令和7年4月1日から、河合町デイサービスのサービスを開始して、宮川町デイサービスを廃止する旨の説明でございました。経緯や背景などに関しても説明がありましたけれども、これは私の受け止め方ですけれども、統合いたしますよと。そういったことが前提の説明会であったような、そんなふうに感じましたので、改めてお尋ねをしたいというふうに思います。

まず1点目ですけれども、直接的ではありませんけれどもデイサービスの在り方を検討する組織についてということで、本年の3月定例会で住田議員が一般質問で、「古川地区のデイサービ

ス利用希望者をほかの地区へ行っていただけるよう、調整や利用しやすい環境整備の検討を行ってまいります。また、今後の介護認定者数の減少に備えた対策として、今はまだ利用していない方々がデイサービスを利用してもらえるよう、利用者ニーズに合わせた機能の分化、魅力あるデイサービスを追求するため、令和6年度の予算では市内各事業所と連携し、将来を見据えたデイサービスの在り方を検討する組織を設けたいと思っております。」こうした答弁があったわけです。これに対して組織というのは設けられ、何かしらの検討をされたのかをまずお伺いをしたいと思います。

その上で、河合町デイサービスと統合するとした経緯、両町民や利用者、家族、職員の受け止め方、そういったことについてはどうだったのかをお聞かせをいただきたいと思ひますし、また、サービス低下を招かないための方策について、どのようにお考えかを伺いたひと思ひます。吉城福社会のことではありますけれども、職員の皆さんもこの件に関しては一生懸命努力をしていただひて、丁寧な説明をしていただひたというふうにお思ひしておるんですけれども、改めてお聞かせをいただきたいと思ひます。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔市民福祉部長 野村賢一 登壇〕

□市民福祉部長（野村賢一）

それでは、宮川町デイサービスについてのご質問にお答えします。

まず、1点目のデイサービスの在り方を検討する組織についてお答えします。この検討組織は、デイサービスの統合などを協議することを目的としたものではなく、デイサービススタッフ同士のつながりを持つため、令和3年度から市地域包括ケア課が呼びかけ、市内事業者との情報共有の会議としていたものを、令和6年4月24日にデイサービス事業連携協議会として改めて立ち上げたものです。デイサービスの内容は、まずは午前に入浴、午後からレクリエーションという形が一般的です。協議会では、将来の利用者ニーズを見据え、それぞれのデイサービスが自らの魅力を高める事業を展開できるよう、市外の先進的な介護事業所に視察を行うことから始め、この地域でどのようなことが可能か協議しました。その結果、各事業所スタッフが、働くデイサービスなど、高齢者の生きがいにフォーカスを当てた様々な取り組みにチャレンジするよう、市と協働して進み始めています。中でも、認知症サポーターの証であるオレンジリング、新聞紙のごみ袋や買い物袋の作成、飛驒のお土産であるさるぼぼづくりの下請けなど、社会とつながり、生きがいをつくることを目標に、各事業所が自ら考え、事業を行えるように変化をしてきている状況です。宮川町デイサービスは、今年度、メモ帳づくりや種鮎のオブジェを作成し、宮川振興事務所等に寄附するなどの事業を展開しました。河合町でもそのような動きがあり、これが合わさることでさらなる魅力あるデイサービスとなるよう、事業所だけでなく市としても一緒に検討、チャレンジしていきたいと思ひております。

2点目、統合するとした経緯、ご利用者、ご家族等の受け止め方についてお答えします。両デイサービスの継続については、過去にも市と吉城福社会との間で何度か話し合いがなされ、赤字であっても、過疎地域の貴重な福祉サービスとの位置づけで継続としてきました。しかし、経費改善を図らないと法人そのものの資金も枯渇することが見込まれることから、吉城福社会から市

へ、デイサービス統合はやむを得ないと報告があり、市もこれに同意をしたものです。実際に宮川町デイサービスは定員15人に対し、令和5年度の1日の平均利用者数は6.91人。河合町デイサービスは定員18人に対し、1日の平均利用者数は9.16人であり、平均人数であります。河合町デイサービスに統合しても、定員以内には収まる形となります。また、統合後利用する場所としては利用者増に対するデイルームや浴室の広さから、宮川町デイサービスの建物では受け入れが難しいこと、また、送迎において宮川町は国道360号沿いにほぼ一方向ですが、河合町は天生地区から稲越地区、古川町五ヶ村地区までとサービスエリアが広範囲で時間がかかるため、河合町のデイサービスセンターを選定しました。

デイサービスご利用者、ご家族の受け止め方としては、「人口減少の飛騨市において仕方がない。経費問題も考える時代である。いずれはいろいろなことが古川町まで行かなければと思えるくらいなので、河合町だったら仕方がない。距離が延びてもサービスをちゃんとしてもらえればよい。」という肯定する意見から、「河合町へ行くようになり、慣れてくるまでが心配。週2回の利用が1回になるのは困る。移動距離が長くなるのでトイレの心配が増す。」という懸念の意見もありました。そこで、これまでの宮川町方面のご利用者のサービス低下にならないよう、今年度途中から、河合町デイサービスとの交流を行いながら、利用に慣れていただくこと、宮川町方面の送迎は車2台で対応し、祢宜ヶ沢上・杉原地区の急行送迎とそれ以外の送迎という形に分けること。体調により、振興事務所や保健センターのトイレも活用したりして、工夫を図ることなどを確認しています。さらに、吉城福祉会には原則、入浴等個人のサービス計画の基本的事項は変更がないように努力をお願いしますが、宮川町デイサービスのスタッフが、河合町デイサービスへ引き続き勤務するかは調整段階であり、変更する可能性があるため、着実な引き継ぎによりサービスが滞らないよう努めるなど、課題を解決しながら進めていきたいと考えております。

〔市民福祉部長 野村賢一 着席〕

○4番（水上雅廣）

丁寧ありがとうございます。心の中で納得しなければいけないなという思いもありながら、ここは納得してはいけないという思いも正直半分あります。既にこういうことですし、今お聞きしたように、利用者の方々と丁寧に接していただいた中での結論だというふうに受け止めさせていただきたいと思えます。

1つ、吉城福祉会のほうでそういう結論を出された中でコンサルタントの影響は大きかったのではないかと思うんですけども、ここに限らず、コンサルタントがいろいろな経営の部門へ入って行って、見ている中でここに着目されたのかは分かりませんが、ほかの吉城福祉会そのものの施設の中で比較されるような経営状況というのはあったんでしょうか。そうしたことを総括した中でここが出てきたということよろしいですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□市民福祉部長（野村賢一）

吉城福祉会の中で大きいものは和光園がございしますが、和光園も今入所者が少なくなって、厳しいというような状況で、今どうにかできないか考えているところです。今のデイサービスですけども、この河合町、宮川町のデイサービスについてはコンサルタントを入れる前から採算が合

わないということで、私たちが承知しておりますに、古川町デイサービスの利益を河合町、宮川町で使うというような図式がコンサルティング前から認識しておりまして、吉城福祉会のほうでは何とかして続けたいということだったんですけども、これ以上続けると、今のコンサルタントのこともあって、この辺りで決断すべき時期ではないかということで決断をされたと伺っております。

○4番（水上雅廣）

そういう経緯なのでしょう。令和6年度の吉城福祉会の事業計画書を見させていただきましたが、この計画書の策定時点ではまだそこまで言及をされていない、今後しっかりと検討していきたいという表記です。その中で、年内にそういう結論が出されたということだったものですから、少し焦っていらっしゃるのかなということも思わないわけでもないわけです。なので、どういう経緯だったのかお話を伺いました。かねてから、そういう含みはあったんだということだと思います。ただ、職員の皆さんがどこまで知っていたのか不安なんですけれど、さっきの話を続きではないですけども、一生懸命献身的にお勤めいただいて、統合によって通勤地が変わってしまって、そうした少しのことで生活が変わるので従事することができない。そんな方がもしかしていらっしゃると、それもどうなのかなと。そういったことまで含めて、しっかり検討いただいたのかどうか、職員の皆さんに納得をいただいているのかどうか、もし市民福祉部長がお知りでしたら教えていただきたいと思います。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□市民福祉部長（野村賢一）

個々の職員の思いまでは正直、把握しておりませんが、吉城福祉会からの話としては、どこもそうなんですけれど高齢化が進んでおりまして、宮川町のデイサービスも、中には無理無理来ていただいているような職員もいらっしゃるといようなことで伺っております。

○4番（水上雅廣）

体調とかで無理無理、年齢で無理無理、そういうことなのか、そういうふうにならざるを得なかったのかは分かりませんが、そういったことがさっきの話ではないですけども、地域の中での生活や、いろいろなところに障ってくることもありますし、家族のこともあるので、できればそうしたことを市のほうからも吉城福祉会のほうへしっかりとケアできるようにお伝えをいただけるとありがたいと思います。

最後にしますけれども、先ほどインフラの話がありました。予算の中でも申し上げましたけれども、特に道路インフラは、ずっと私申し上げておりますけど、福祉とかに直結すると思っております。今のデイサービスの話もそうですけれども、宮川町から河合町ということになると、どうしても洪水調整区間を通過することになると思います。そればかりではなくてバイパスのこともありますし、そうしたことを含めて、今までは経済界といいますか、どちらかというところとそういう方向での要望・陳情というところで一生懸命やっていたと思うんですけど、福祉の関係の団体にも、こういった面に少し目を向けていただいて、自分たちのサービス向上のためにも、そういう基盤の整備の安全・安心というのは大事なんだということで、要望の中で市長と一緒に、また市と一緒にやっていただけるようなことをしていただければなというふうに思います。最後

に質問の形で、この点についてお答えいただければと思います。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

道路の要望は、いろいろな多様な市民の声が伝わるのが一番効果的ですし、今おっしゃったことはとても大事なところだと思いますので、そういったところを工夫しながら要望活動をしっかりやっていきたいと思っています。

○4番（水上雅廣）

ぜひ、よろしく願いをいたします。

以上で質問のほうは終わらせていただきます。

〔4番 水上雅廣 着席〕